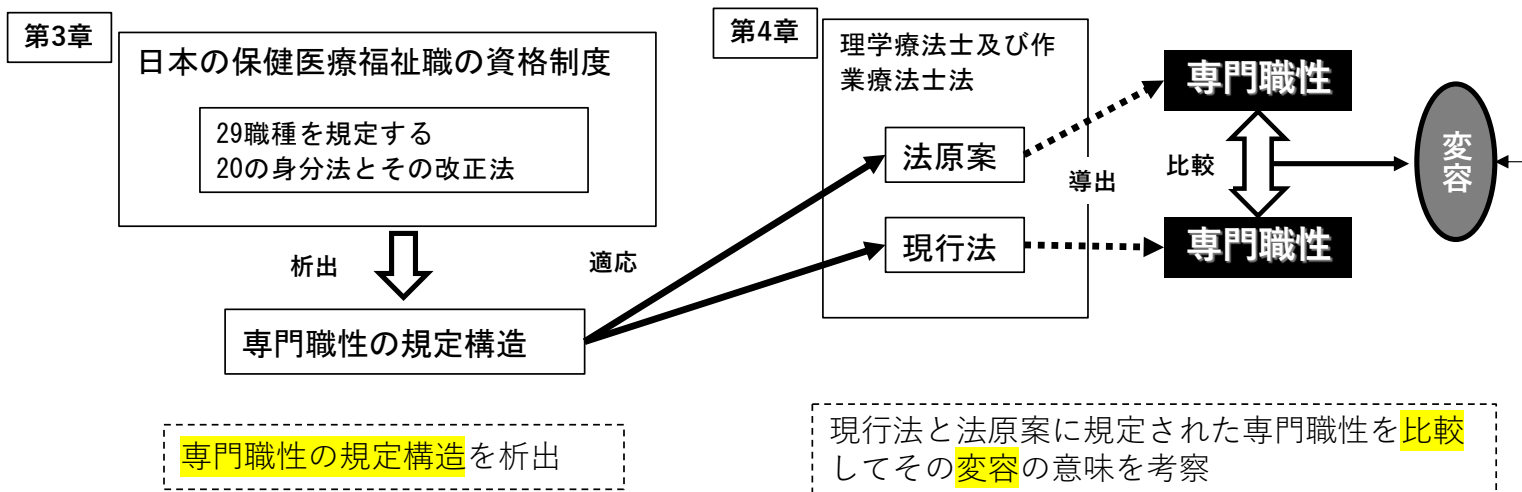
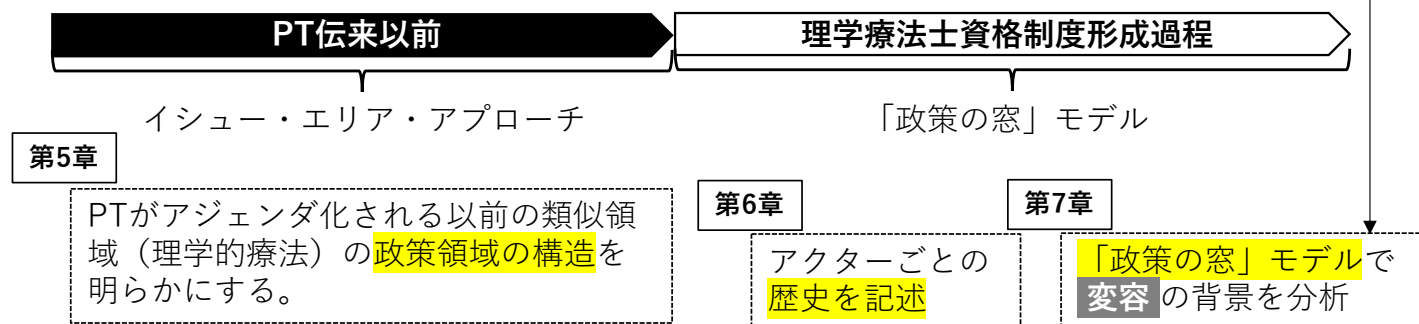


課題の設定と研究の枠組み模式図

課題① 第Ⅱ部 資格制度から見える理学療法士の専門職性の導出



課題② 第Ⅲ部 理学療法士の資格制度形成過程から見える専門職性の背景



★方法論としての課題

1. 資格制度化 政府関係者の動向にも着目する

2. 「政策の窓」モデルの問題点を考慮する

分析結果

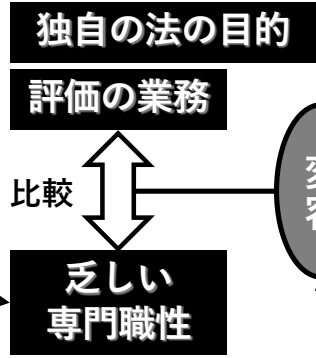
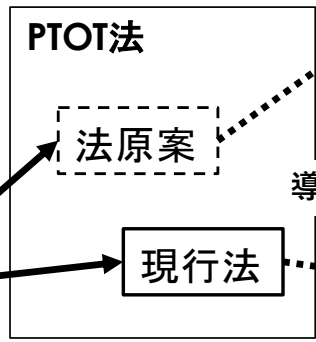
第3章

日本の保健医療福祉職の資格制度

析出 ↓

- 専門職性を規定する資格制度の構造
- ① 医師(歯科医師)による二重の管轄構造
 - ② 管轄権内での独自性・自律性の主張
 - ③ 管轄権外での専門職性の獲得
 - ④ 医療管轄権の優位性
 - ⑤ 不十分な市場閉鎖(教育年限)
 - ⑥ 管轄権内での高度化(教育年限延長)

第4章



変容

PT伝来以前
理学的療法の取組みをめぐる政策領域

イシュー・エリア・アプローチ

第5章

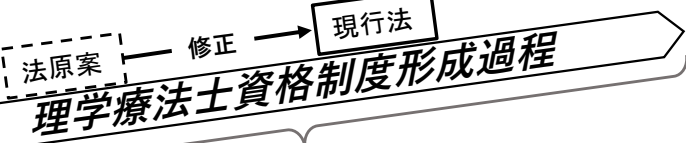
- ① 視覚障害者の職業保護に対する規範構造
- ② あん摩・マッサージ分離問題
- ③ 理学的療法の管轄権をめぐる鬼門構造

第6章

参加者ごとの問題と解決策
必然性の見えない政策過程の存在

第7章

「PTの資格制度がない」状況を、参加者ごとで問題と定義し、お気に入りの解決策と結合させ、政治的な障害がない好機で窓が開いた。PTの資格制度は



「政策の窓」モデル

背景を分析